

## 大山上池・下池

(おおやまかみいけ・しもいけ)

位置：北緯38度44分、東経139度45分／標高：12m／面積：39ha／湿地のタイプ：淡水湖、ため池／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：山形県鶴岡市／登録：2008年10月／国際登録基準：2、5、6

湿地のタイプ：淡水湖、ため池



冬の下池の景観



渡り鳥が飛来し始めた秋の様子



下池 (左奥におうら愛鳥館)



ハスに覆われた夏の上池

### 湿地の概要：

山形県の日本海側に位置し、肥沃な大地を広げる庄内平野。日本海に注ぐ最上川や赤川などの河川が大地と人々に恵みをもたらし、日本有数の米どころとなっている。赤川の流域ではかつて旧庄内藩の城下町が栄えた。町制・市制の施行や平成の大合併を経て、鶴岡市は東北地方で最大の面積を有する市町村となった。

上池・下池は、鶴岡市の中心部より西に約9km離れた大山地区に位置し、約400年前に農業用につくられた15ヘクタールと24ヘクタールの二つのため池である。大山は、『奥の細道』を著した芭蕉に随行した曾良の「曾良随行日記」にもでてくる江戸時代からの地名で、いまでも酒造りの町として知られている。

上池・下池の西には、八森山(229m)から高館山(274m)へと南北に海岸丘陵がつらなり、冬季には、日本海から吹きつける冷たい北西風を遮る、屏風のような役目をしている。

一帯は、江戸幕府の直轄領として森林

の伐採が禁じられてきたため、ブナなどの広葉樹林の良好な自然植生が残され、集水域から二つの池に安定的に水が供給されてきた。そのため、様々な水生植物、魚類、鳥類、トンボやチョウなどの希少種も生息する、生物多様性豊かな生態系と美しい景観が保全されてきた。

### 2万羽以上の水鳥が飛来する池：

こうした恵まれた条件の上池・下池には、毎年冬になるとマガモ、コガモ、コハクチョウをはじめ、マガン、ヒシクイなども含めて2万羽以上の水鳥が飛来し、越冬地・中継地として利用する。なかでもマガモは6万羽の飛来を記録したこともあり、下池にある野鳥観察小屋「おうら愛鳥館」は、シーズン中、バードウォッチャーでにぎわう。

下池を一周できる遊歩道は市民の憩いの場として親しまれている。

両池に生育するハスをはじめとする浮草は地元の「浮草組合」によって管理され、夏には一面がハスの花でうめつくされ、その風景は地域の風物詩となっている。また、ハスの花や葉はお盆の仏花として

刈り取られ出荷されている。他にも、春のミズバショウ、カタクリ、秋の紅葉と一年中にぎわっている。

【マガモ】 全長60cm。雄は頭が光沢のある美しい緑色をしていて、首に白い輪があり、胸は暗褐色で、嘴は黄緑色。俗にアオクビと呼ばれる。日本に飛来するカモ類の代表種で、池や沼、川などで群れて越冬する。夜行性で、田んぼなどで採餌する。

### ●関係自治体

鶴岡市役所 Tel: 0235-25-2111

### ●関連施設

鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

Tel: 0235-33-8693

